

所属 市川児童相談所診断指導課

入庁年 2020年

心理

児童虐待や障害者支援・DV相談など多岐にわたり、相談者の心理面接や心理判定などを行い、個別的な精神面でのサポートだけでなく、関係機関との連携を取りながら積極的な地域援助などの業務に従事します。また、児童虐待などのケースワークにも従事します。

志望理由

児童の気持ちに寄り添うことができる業務に携わりたいと思い、児童相談所の児童心理司という職種を知りました。心理職の採用数が他県に比べ多く、こどもの心理面のアセスメントやサポートに注力していると感じ千葉県を選びました。

やりがい

こども一人ひとりに異なる事情があるため、経験を積んでも、最適な対応を日々考える中で悩むことも多いです。研修や意見交換を通じて専門性を高め、他機関と連携しながら支援を行い、変化を感じることでやりがいを実感しています。

印象に残った仕事

担当となったものの、なかなか面接に応じなかったこどもと、2年間手紙の関わりを続け、面接が実現。関係を築き笑顔も見られるように。成果がすぐに出なくとも、日々の積み重ねが結果に繋がることを実感しました。

※令和7年度、児童相談所の調査課、支援課及び診断指導課は「児童福祉課」及び「児童心理課」に再編されます。

INTERVIEW

インタビューの詳細はこちら▶



所属 銚子児童相談所一時保護課

入庁年 2018年

保育士

児童相談所や県立の児童養護施設などにおいて、こどもと生活を共にしながら保育・生活指導などを中心に保育士業務に従事します。また年長児の自立促進や被虐待児の心理面でのサポートなどにも取り組みます。

志望理由

私は県職員になる前、保育園で働いていました。その時に児童相談所と関わるこどもや、様々な特性を持ったこどもたちと関わってきました。特性を持ったこどもたちの支援や、社会的養護についての関心が高まったため、志望しました。

やりがい

こどもたちが「せんせーい」と駆け寄ってくれる時や「ありがとう」と感謝されることがある時にやりがいを感じています。入所当初は心を開かずにいた子も、支援を通じて穏やかになり、心を開いてくれたと感じるときにやりがいを感じます。

印象に残った仕事

夏祭りやクリスマス会に向けて、こどもたちも飾りを製作したり出し物の練習をしたり、準備に協力してくれます。夏休みやクリスマス児童相談所で過ごすこどもたちも多いですが、たくさんのこどもの笑顔を見ることが出来ます。

INTERVIEW

インタビューの詳細はこちら▶

